

海の生きもの観察ノート⑦

海辺の植物を 観察しよう



千葉県立中央博物館分館
海の博物館

はじめに

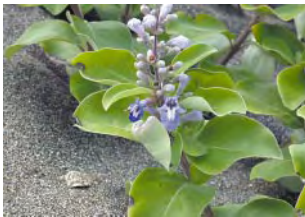
千葉県では、およそ2800種の植物が記録されており、海の博物館のある勝浦市から780種が報告されています(『千葉県の自然誌』)。本冊子は、そのうち海の博物館の自然観察路になっている鵜原理想郷をはじめとする千葉県の海岸で見られる植物77種を紹介しました。

岩礁や砂浜などの海岸は、波の浸食で地形が変わったり、海からの強い潮風にさらされ、波しぶきや飛砂を浴びるなど植物にとってはたいへん過酷な環境です。そんな環境に適応し、たくましく生きている植物を海岸植物や海浜植物と呼んでいます。海辺という特別な環境だけに見られる海岸植物を観察してみましょう。

本冊子が房総半島の海岸で植物観察の際に少しでも役立つ、郷土の美しい自然を見直す機会になれば幸いです。

目次

1	さまざまな海岸の植物	3
2	北限の暖地性海岸植物	4
3	海岸に適応した植物	5
4	岩石海岸の植物	6
5	砂浜海岸の植物	14
6	海岸の ^{かん} 灌木(照葉樹)	25



ハマゴウ

表紙の写真

イソギク(左上), スカシユリ(右上)
ハマオモト(左下), ハマヒルガオ(右下)

裏表紙の写真

マルバグミ(左上), キリンソウ(右上)
トベラ(左下), スカシユリ(右下)

1 さまざまな海岸の植物

海岸の自然環境は、大きくわけて岩石海岸及び砂浜海岸と干潟などの塩性湿地に分けられ、それぞれの環境によって見られる植物が違います。

〈岩石海岸〉



強い風や波しぶきを受けるので、丈が低く葉の表面が厚いものやつやのある植物が見られます。

ツツブキ、タイトゴメ、ワダン、イソギク、スカシユリ、ハチジョウススキ、ハマナデシコ、ハマボス、ハマカンゾウ、ボタンボウフウ、ラセイタソウ、マルバグミ、マルバアキグミ、ガクアジサイ、クロマツ、トベラ、マルバシャリンバイ、オニヤブソテツなど

〈砂浜海岸〉



乾燥や砂の移動に耐えられるように、根や茎を土中深くはりめぐらしたり、根茎に養分を蓄えたりする植物が見られます。

ハマヒルガオ、オカヒジキ、オニシバ、ハマスゲ、ケカモノハシ、コウボウムギ、コウボウシバ、ネコノシタ、ハマアオスゲ、ハマエンドウ、ハマオモト、ハマゴウ、ハマニガナ、ハマニンニク、ハマボウフウ、スナビキソウなど

〈塩性湿地〉(干潟や河口)



海水と淡水の入り混じる特殊な環境(汽水域)であり、このような環境でしか見られない植物も多くあります。

ハママツナ、シオクグ、マツナ、ホソバノハマアカザ、ウラギク、ナガミノオニシバ、アイアシ、コウキヤガラ、シバナなど

(塩性湿地の植物は本冊子では扱っていません。)

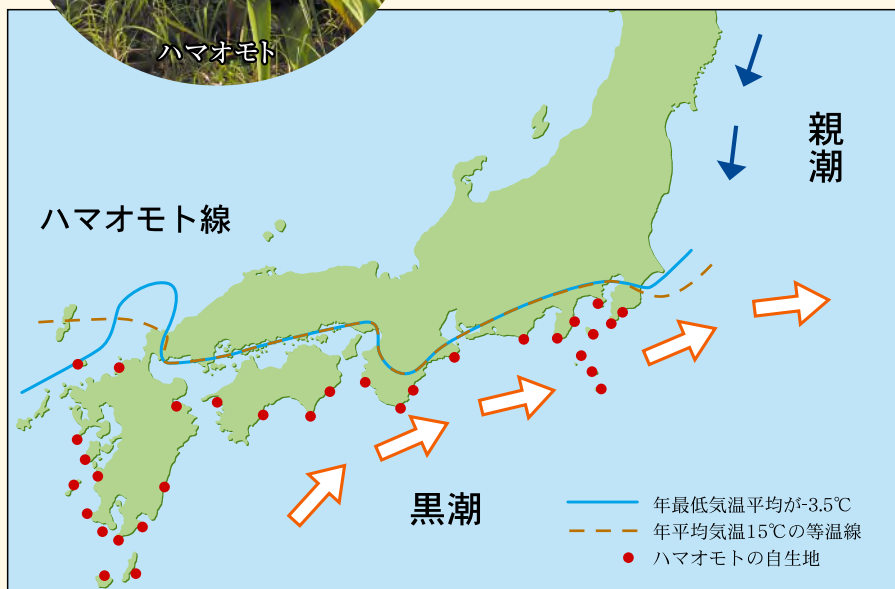
2 北限の暖地性海岸植物



ハマオモト

生物は気温などの環境に分布を制限されます。千葉県は黒潮の到達する北限域にあたるので、黒潮をもたらす温暖な気候に依存する暖地性の生物は、千葉県を北限とするものがたくさんあります。

それは造礁性サンゴや魚類などの海中の生物ばかりでなく、昆虫など陸上の多くの生物にも及び、海岸植物も例外ではありません。



図は小清水卓二(1952)ハマオモトの分布と分布機構「遺伝6(9)」を改変

図の黄色の破線は、年平均気温が15℃の等温線を示し、ハマオモトの分布限界(ハマオモト線)とほぼ重なります。つまり黒潮の影響している地域をハマオモトの分布が表しているとも言えます。同じ理由で、千葉県をほぼ北限域とする海岸植物は、イワタイゲキ、ハマナタメ、ハマボウ、ハマアザミ、ハチジョウススキなどたくさんあります。関東地方での分布が北限域と思われる海岸植物には、本冊子では「関東以西」と表記しました。

また逆に、千葉県は親潮の影響を受けるほぼ南限域にもあたり、ハマナスのように分布の南限になっている寒地性の植物も見られます。

しかし、生物分布は常に変化していますので、固定したものではありません。

3 海岸に適応した植物

海岸に生育している植物の中には、海岸の過酷な環境に適応して形態が変わったものがあります。鵜原理想郷で確認されている「ハマサワヒヨドリ」は「サワヒヨドリ」より海岸の強い風に耐えるため茎が太くて短く、葉は多肉で全体に砂粒で傷つけられるのを防ぐために毛が密生します。このように厳しい海岸の環境に適応して、変種やそれに近いものになっているものが見られます。『千葉県の自然誌』には下記のような海岸型の植物が記されています。

ハマサワヒヨドリ	(サワヒヨドリ海岸型)	勝浦市, いすみ市, 他
マルバノハマシャジン	(ツリガネニンジン海岸型)	勝浦市, 銚子市, 他
ソナレマツムシソウ	(マツムシソウ海岸型)	銚子市, 鋸南町, 他
アツバスマレ	(スマレ海岸型)	館山市, 富津市, 他
ハマコウゾリナ	(コウゾリナ海岸型)	南房総市, 市原市, 他
ハマサオトメカズラ	(ヘクソカズラ海岸型)	南房総市, 富津市, 他
ハマタカトウダイ	(タカトウダイ海岸型)	館山市, いすみ市
マツカゼスゲ	(コイトスゲ海岸型)	銚子市
ハマエノコロ	(エノコログサ海岸型)	館山市, 鴨川市, 他

このほかに、学名はついてはいませんが海岸型を示す植物は、アマドコロ海岸型、ミシマサイコ海岸型、ノアザミ海岸型、コマツナギ海岸型などまだまだたくさんあります。海岸の植物を観察するとき、こうした変異に着目して観察しても興味深いでしょう。

また、このように変異した植物は、海岸の厳しい環境でしか見られない稀少な植物でもあり、大切に保護されなくてはならない植物と言えます。

ハマサワヒヨドリ

Eupatorium lindleyanum
var. *yasushi*

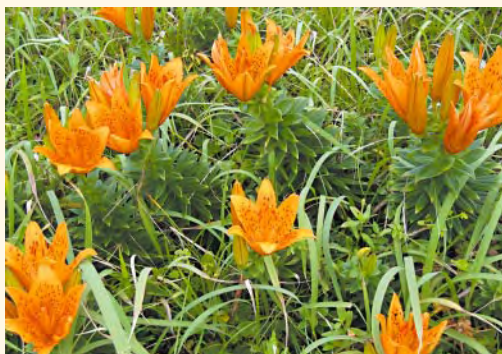
キク科フジバカマ属

サワヒヨドリより茎が太くて短く、葉は多肉で全体に毛が密生する。



2000.9.22 銚子市 [T]

4 岩石海岸の植物



2007.7.12 いすみ市

スカシユリ(ハマユリ)

Lilium maculatum

分類 ユリ科ユリ属

分布 本州

花期 6～8月

花びらと花びらの間にすきまがあることからこの名がついた。崖などの岩場に生え、初夏に美しい花をつけ遠くからもよく目につく。いろいろな色の園芸品種もつくられている。



2007.8.19 勝浦市

ノシラン

Ophiopogon jaburan

分類 ユリ科ジャノヒゲ属

分布 関東以西, 四国, 九州, 沖縄

花期 7～9月

海岸近くの急斜面などに群生している。常緑多年生の植物で、よく似たヤブランより葉が広い。

夏に白い花が咲き、秋には緑から紫色になる大きな実をつける。



2007.7.20 勝浦市

ハマカンゾウ

Hemerocallis fulva var. *littorea*

分類 ユリ科ワスレグサ属

分布 関東以西, 四国, 九州

花期 7～10月

高原に咲くニッコウキスゲのなかまで、一つの花は、朝開くと夕方には閉じてしまう一日花。暖かい所では、冬も枯れずに緑の葉が残っている。



2007.5.21 勝浦市

ハマボッサ

Lysimachia mauritiana

分類 サクラソウ科オカトラノオ属

分布 日本全土

花期 5～6月

海岸の岩場などに生える二年草。ホッサ(払子)は、動物の毛を束ねて柄をつけたハエなどを払う仏具で、花穂のようすが似ているので名付けられた。



2000.9.22 銚子市〔T〕

ソナレムグラ

Hedyotis biflora var. *parvifolia*

分類 アカネ科フタバムグラ属

分布 関東以西、四国、九州、沖縄

花期 8～9月

海岸の崖の下のほうに生える常緑の多年草で、葉には光沢があり、夏に白く小さい花をつける。葉も花もハマボッサより小さく目立たない。

名前は、「磯馴ムグラ」という意味である。



2004.9.25 館山市〔T〕

ハチジョウススキ

Miscanthus condensatus

分類 イネ科ススキ属

分布 本州(関東)

花期 9～10月

大型の多年草。よく似たススキは内陸に分布し、葉の幅が狭くふちがざらつく。千葉県内の海岸部でハチジョウススキとされるものは、ほとんどがススキとの雑種の特徴が見られる。



2007.5.21 勝浦市

イヨカズラ (スズメノオゴケ)

Cynanchum japonicum

分類 ガガイモ科カモメヅル属

分布 本州, 四国, 九州

花期 5～7月

岩磯の風衝地に生える、つる性の多年草である。葉は光沢があり、秋になると5 cmほどの果実が2つに割れ、長い毛のついた種子をとばす。



2000.9.22 銚子市〔T〕

マルバノハマシャジン

Adenophora triphylla var. *rotundifolia*

分類 キキョウ科ツリガネニンジン属

分布 本州

花期 8～11月

ツリガネニンジンの海岸型で、葉は茎の中から下部に集まっているツリガネニンジンとはススキ草原に生え、葉が茎に平均につく。



2000.8.6 館山市〔T〕

トウオオバコ

Plantago major var. *japonica*

分類 オオバコ科オオバコ属

分布 日本全土

花期 7～8月

オオバコにそっくりだが、ずっと大型で花茎は高さ1 mほどになる。海岸の岩場や近くの草地に生える。